



校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第1号
津山教育事務所 4月

「スタート」が大切! 校長先生の目指している「子ども像」「教職員像」「学校像」を職員や児童生徒に伝えましょう!

新任・転任の校長先生は、着任直後で非常に多忙な日々をお過ごしと思います。落ち着いて学校経営ビジョンや戦略を見直すことができにくいかもしれません。

しかし、最初が肝心です。「こんな学校にしたい!」という強い思いをもって、前任の校長先生のアクションプラン (AP) を見直し、自分のものにしてください。

まず自分のチームを知る

- ①学校の強みや弱みの把握
- ②強みの強化や弱みの補強、克服に向けた対策
- ③取組の焦点化・重点化
(今年度の挑戦はこれ!)
- ④重点取組の共有、発信、実行

アクションプランは学校の方向性を示す羅針盤 (ナビゲーションツール)

学校経営のビジョンと戦略 (学校の目指していること) を職員と**共有**することは、大切にしていかなければならないことが確認でき、頑張っていく方向も明確になるので、ベクトルを合わせチーム一丸となって取り組むことにつながります。

その際、『なぜ、その子ども像なのか』『なぜ、それを目指さないといけないのか』という説明が必要です。**納得感**と**必要感**をもって提示していきましょう。

学校がやりたいことを見える化=「項目」名を学校で設定
「本年度の重点目標」=どのような児童生徒を目指す?
「達成指標」=どうなれば重点目標達成?
「中間期(年度末)の値」=目的の達成度

「重点取組」=目的達成のために何を?
「取組指標」=誰が、どのくらいの頻度で、どこまで、どのように?
「取組状況の分析・検証」=手段の実行度。どのくらいできた?できなかった?それはなぜ?
「今後の取組」=何をどのくらいする?

アクションプラン (AP) の作成・取組、学校経営等でお困りのことがありましたら、ご遠慮なくアドバイザー **金田**までご相談ください。連絡先: 津山教育事務所義務教育支援課学力向上班 TEL (0868) 24-8705